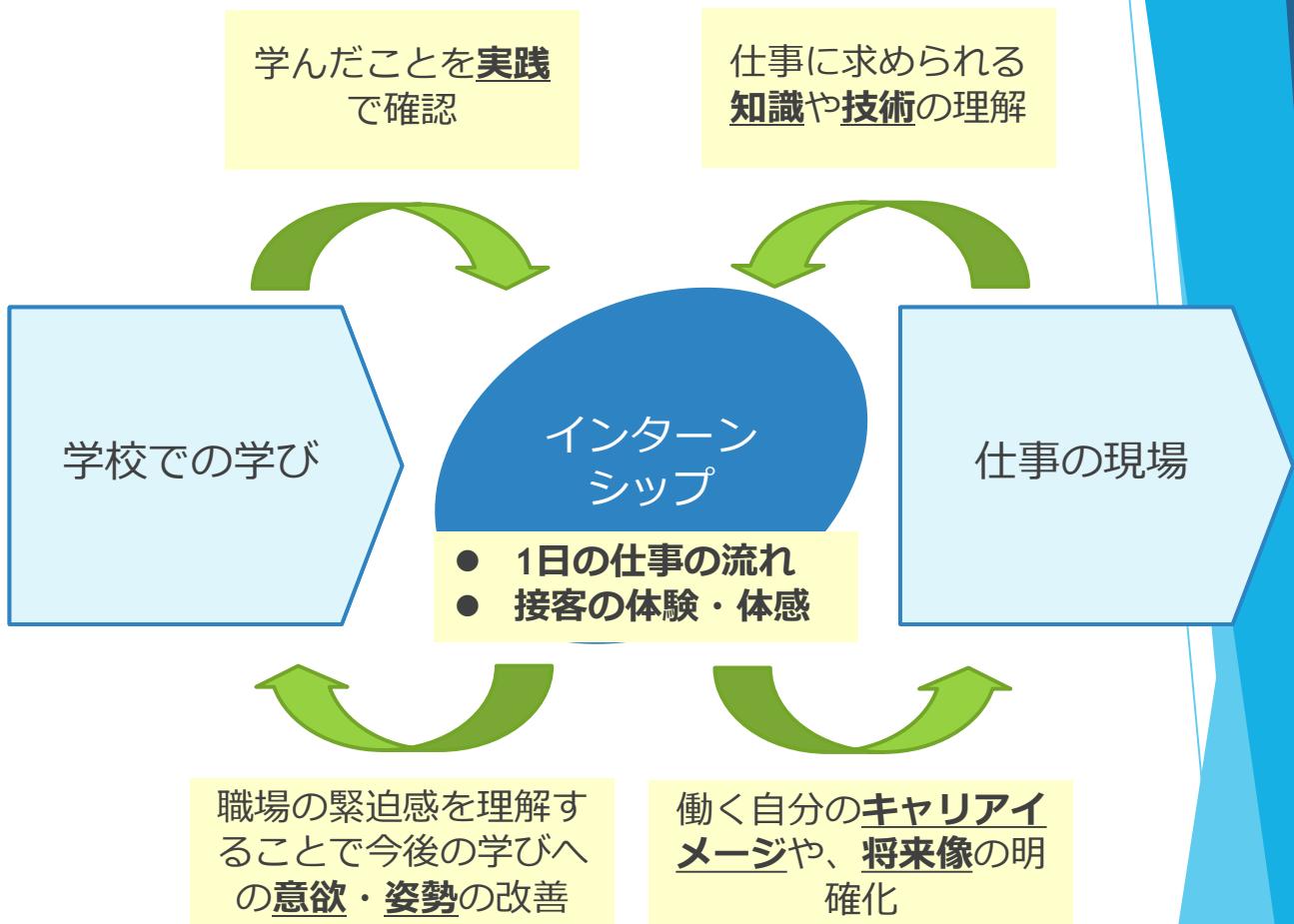


## インターンシップの概要 (オリエンテーション)

---

## 1. インターンシップの意義

単に職場見学・体験だけでなく、これまで学んだこととの関連性や、将来に向けての方向性にも影響することを得てもらいたいと思います。



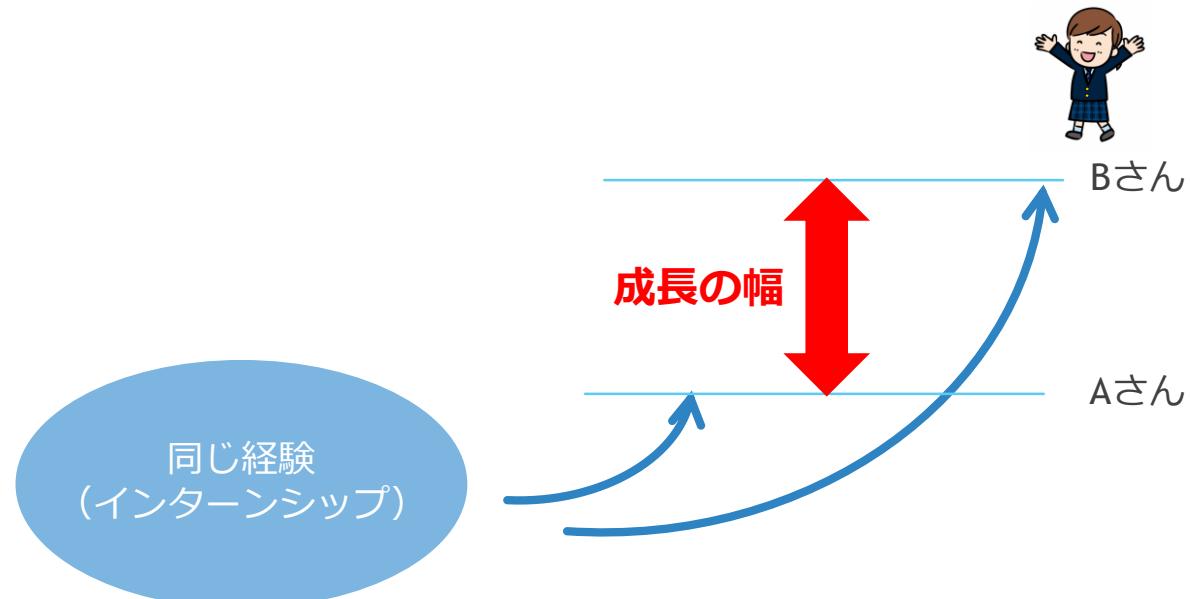
中心のインターンシップ（仕事の体験）から話し、以降は左上から順に説明していく。

<b>①学んだことを実践で確認 (左上)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学んだことが仕事の現場でどのように行われているか</li> <li>• 修得した知識や技能がお客様のいるサロンの現場で使うことが出来たか（本当に身に付いていたか）</li> </ul>
<b>②仕事に求められる知識や技術の理解 (右上)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 練習し、身に付けていた知識や技能は、仕事で使えるレベルだったか</li> <li>• 職場の先輩、上司といったプロフェッショナルはどういった動きをしていたか</li> </ul>
<b>③職場の緊迫感を理解することで今後の学びへの意欲・姿勢の改善 (左下)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インターンシップで垣間見た仕事の現実を踏まえると、学校での学びや自己練習など、どういった姿勢で取り組むべきか、また、新人としてどのレベルまでを目指すべきか</li> </ul>
<b>④働く自分のキャリアイメージや、将来像の明確化 (右下)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どんなタイプのサロンで働きたいか</li> <li>• 働き始めてからどういったキャリアを積み、専門性を極めていきたいか</li> </ul>

## 2. 経験から得る成長の違い

同じ経験をしても、その経験を踏まえて成長するスピードや量は、個人差があります。

何がその違いを生むのでしょうか。



### 多くを見る

- **観察力**です
- 他の人の動き、使われている物品、お客様の表情など多くに気づき、見て吸収しましょう

### 多くを考える

- 観察したことを元に、その先にあるものを**予測**します
- この仕事を行うのは何故なのか、この後にはどんなことが起きるだろうか、準備しておけることはあるだろうか、など

### 多くを話す ・教わる

- サロンの先輩からは、直接指示された仕事ばかりでなく、それ以外の仕事やプロとして考えることなど多くの情報をコミュニケーションを通して得ましょう

インターンシップに漫然と参加するのではなく、“より多くを得る気持ち”で臨むことが狙い。

- 「どんな経験が出来たか」

ではなく、

- 「（仮に同じ経験であっても）本人がどのようにその期間を過ごしたか」

で得られるものが変わることを強調する。

多くを得るためにには、

①見ること

②見たものから類推すること

（要は、集中して頭を使って行動すること）

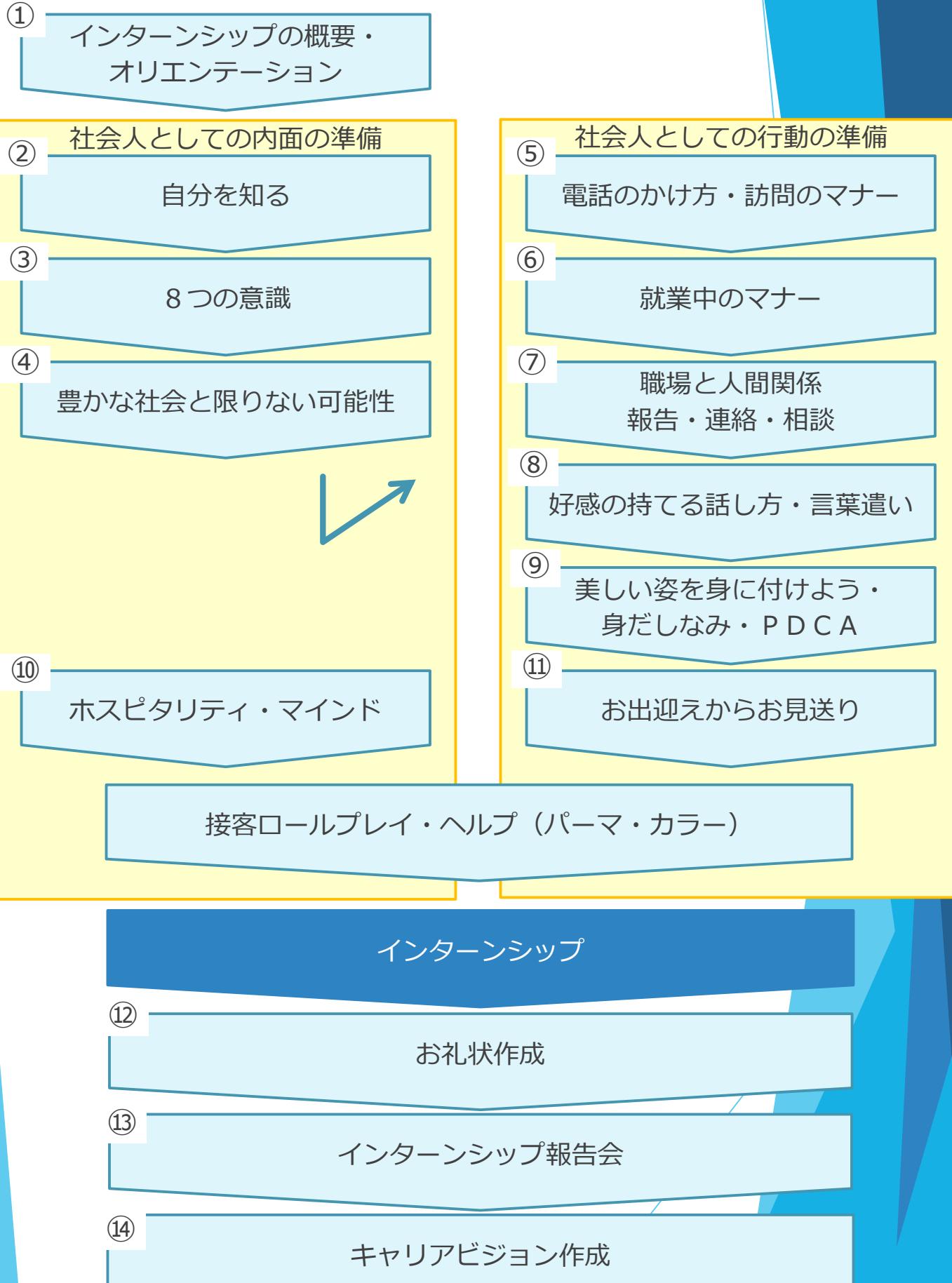
を伝えると共に、

③コミュニケーションの重要性

を意識づける。自分から挨拶し、自分から声を掛け、分からぬことを質問するという前向きな行動が、相手への好感にも繋がり、信頼関係になる。

与えられた仕事を全うすることだけがインターンシップではなく、そこで交わされるプロのスタッフとの会話から情報が得られるという貴重な機会だということを説明する。

### 3. インターンシップ事前授業の概要



- インターンシップ事前授業の構成を説明する。
- 接客を伴うサービス業では、動きが出来れば良いのではなく、自分の内面（気遣いなどの心・プロを目指す高い志）もお客様に伝わってしまう重要な部分。
- そのため自分と向き合い、美容師という専門職を志す者としての心構えや意識から学び、その後、具体的な行動に関する学んで、インターンシップ参画の準備を行う。
- 直前にはロールプレイも用意している。サロンの現場と思って取り組んでもらいたい。（練習でできないことは、本番のお客様の前ではできない。）
- インターンシップ参加後に振り返りを行う。
- 何を学び、何を得たかを互いにすり合わせることで、自分のインターンシップ経験を客観的に見つめ直すと共に、他の人が経験して得たものも理解を深める。
- インターンシップの場では、いつも出来たことでも緊張するもの。事前授業では、サロンに迷惑を掛けないように基本的な行動が行えるように練習する意図がある。
- 真剣に考え、積極的に発言し、真摯に取り組むこと。